

2019年9月

【月報】

## 牛皮膚真菌症原因菌に対する鶏 IgY 抗体を調製しました

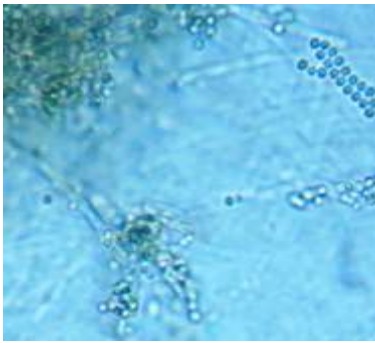
鶏 IgY 抗体とは、鶏卵の黄身に存在する抗体です。不活化した病原菌を鶏に接種すると、その菌に対する抗体が卵の黄身に取り込まれます。当センターではこの鶏 IgY 抗体を利用し、牛の感染症を抑える技術について研究しています。

牛の皮膚真菌症は、牛の皮膚に真菌が付着することで感染し、発症すると脱毛

と白いかさぶたができかゆみを伴います。

今回、皮膚真菌症の牛から採った病原体を鶏に接種して、黄身に含まれる真菌の IgY 抗体を測定したところ、高い抗体価を示しました。今後、皮膚真菌症の牛を使って実証試験を行う予定です。

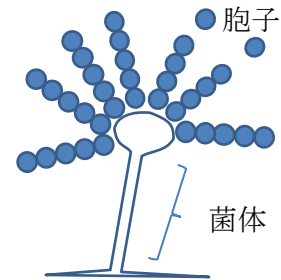
畜産センター



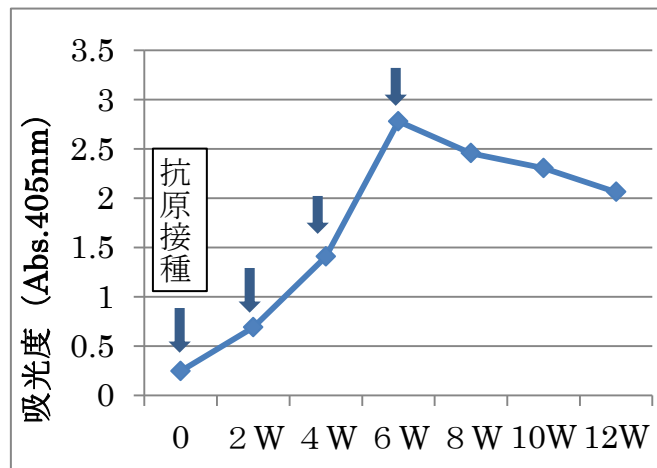
(左) 牛皮膚真菌症の原因菌 (真菌)



(右) 顕微鏡下の真菌



真菌の簡易図



卵黄中の抗体価の推移

## 【管内情報】

### 令和元年度の牧草の収穫・調製終了

碓高原牧場では、約 20ha の採草地を活用し牛の飼料としてオーチャードグラスなど 3 種類のイネ科牧草を混合栽培し、刈り取り後ロールサイレージに調製しています。

今年は、春先の天候に恵まれたことから、5月に刈り取った1番草からは、計画を大きく上回る200個のロールサイレージを生産し、その後夏期の高温小雨が生育に影響を及ぼしたものの、7月刈り取りの2番草、9月刈り取りの3番草を併せ、平年（500個）を上回る567個のロールサイレージを生産することができました。

今後は、草地更新<sup>\*</sup>や肥培管理による土壌改善を図ることにより、収量安定と品質向上を計画しています。

※草地更新: 継続して特定牧草を栽培し続けると、収量が減少し、嗜好性が悪化するため優良品種を播種し、草地の植生を改善する。



牧草の乾草作業



牧草のロール作業



牧草のラッピング作業

畜産センター碓高原牧場